

共同礼拝

2024年3月17日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 大澤葉子

前 奏

招 詞 詩 編 102編2～3節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

エレミヤ書 7章1～11節 (旧1188)

マタイによる福音書21章12～17節

(新40)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 16

説 教 「祈りの家」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 139

献 金

頌 栄 540

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

3月の祈り

レント(受難節)の期間にあって、主の御受難の持つ恵みが意識され、罪の贖いと悔い改めの信仰の歩みが整えられるように。

イースターを覚え、復活の主を仰ぎ、礼拝と信仰の生活を確かなものにする事ができるように。

教会総会が主の御心に導かれるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

受難週に向けて、主イエスの十字架の受難と死による贖いを信じる信仰を確かなものにできるように。説教が正しく聞かれ、御言葉によって福音に歩む歩みが力づけられるように。

震災によって弱り痛みを抱えている教会と人々が支えられるように。

卒業、進級、新しい歩みに向かう人々が祝されるように。

「祈りの家」 高橋和人

マタイによる福音書21章12～17節

主イエスは神殿の境内に入られた。そこは、神殿に参拝する人々の便宜のために、様々な商売が行われていた。過ぎ越しの祭りには巡礼者たちで混み合った。そこでは、両替と鳩の販売が行われた。両替は神殿に納める貨幣が決まっていたため必要であった。鳩も神殿に捧げる犠牲であった。それらは参拝者の便をはかり公認され、神殿の収入となった。双方の利となる大人の知恵、この世の仕方だ。

主イエスは商売人を皆追い出し、両替人と鳩売りの出店を壊された。他にはない主イエスの激しい姿

である。

この場面は主イエスの「宮清め」と呼ばれる。ヨハネ10:22の「神殿奉獻記念祭」は宮清めの祭りであった。それはギリシア文化に支配された時代に、神殿から偶像が排除されて回復されたことを記念する祭りであった。

エレミヤのような預言者たちは神殿に入り込む偶像崇拜を激しく非難してきた。

主イエスの時代は神殿に偶像が持ち込まれていたわけではない。しかし、主イエスが商売人を追い出されたのは、そこに神殿にふさわしくないものがあるからだ。エフェソ5:5は貪欲な者を偶像礼拝者という。貪欲が神を退ける。

パウロは「あなたがたは自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか」「あなたがたはその神殿なのです」(1コリ3:16-)と教える。信仰者は神の家なのだ。

主イエスは「わたしの家は祈りの家と呼ばれるべきである。」と言われる。主は祈るときには「奥まった自分の部屋に入って戸を閉め」(6:6)と言われる。祈り以外のものが入らないように。

神殿での主イエスの姿は私自身に働く主イエスの姿だ。人の考え、自分の思いで満たされ、腹を神とし(フィリピ3:19)この世のことしか考えない。主イエスに追い出してもらうべきもので満たされている。

主のそばに寄ってきたのは、主を求める者たちだ。いやされることが必要なことを知っている。自分の小ささを知っている。そのときには、祈るための部屋が生まれている。大人のものではない子どもたちの口にこそ讃美がある。素直な祈りの家とならねばならない。そのために主が働かれる。